



大山崎の野鳥（ホシハジロ）

第140号

発行日 平成29年1月1日
 発行元 大山崎ふるさとガイドの会(OFG)
 発行責任者 蛭木茂徳
 連絡先 大山崎町歴史資料館内
 TEL 075 (952) 6288, FAX 075 (952) 6289
 URL <http://www.kyoto-ofg.org/>

新年の挨拶

会長 蛭木茂徳



明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましても清々しい新年を迎えられたことと存じます。昨年はふるさとガイドの会も設立20周年を迎え、記念式典を行い、記念誌の作成にも取り組みました。私たちの会も多くの課題をかかえな

がらも大山崎に来られた方々と親しく接し、地元の歴史や文化、自然を案内して大いに楽しんで頂きたいと思っています。

毎年正月には気分一新して、一年の計をたて希望の達成のために誓いをたてますが、今年は各自どのような計画をたてられたのでしょうか。私自身はもう少し歴史の知識を広め、豊かな感性をもって人を引き付ける話術を身に着けることができればと思っています。

歴史上の人物で面白い人物に出会った時、痛快な気分になります。たとえば、坂本龍馬など土佐藩の町人郷土の家に生まれ、幼少時には坂本のよぼったれと呼ばれたりして凡庸なこどもでしたが、絵師河田小龍から世界情勢を学び、脱藩して江戸に出て、やがて勝海舟に師事し、幕府が建てた海軍操練所の塾頭を務める

までになっています。単なる尊王攘夷一辺倒だった他の志士との違いがあります。禁門の変では仇敵の間柄であった薩摩と長州を結び付けて、薩長同盟を成立させたのも龍馬で「船中八策」という形で独自の国家構想を描くまでに成長しました。

人間は誰もが長所、短所を併せ持っていますが、自分本位になり過ぎないように他人の良いところを認めていければと思います。

よく「歴史は繰り返す」といわれます。われわれが歴史に惹かれ、自己の生き方の教訓にしようとするのも、さまざまな人物や事件やその結末をみて感動や共感または反省点を見出したりするからでしょう。私たちは生涯学習の一環として OFG の活動に携わり、学ぶことの喜びを得ています。ふるさとのことを更に多くのひとに伝えていくことで地域の活性化につながっていければ幸いです。この一年健康に支えられ、好奇心や向上心を常にもってふるさとガイドの活動に貢献し飛躍の年にしたいと願っています。



11月11日～1月9日までの活動実績

1. 主なガイド
 - ・11月12日(土) 連合京都乙訓地域協議会 (16名)
 - ・11月19日(土) 阪急交通社名古屋 (15名)
 - ・11月26日(土) ヤマハ貝塚会 (15名)
 - ・11月26日(土) 長岡第四小学校区コミュニティ (36名)
 - ・11月29日(火) わいず倶楽部びわ湖交流会 (23名)
 - ・11月30日(水) 大阪府高齢者大学校 (41名)
2. 会の行事など
 - ・11月24日(月) 洛中ウォーキング 2016 秋 (17名)
 - ・11月28日(月)～29日(火) OFG あちこち学習山歩 熊野古道・伊勢路 (11名)
 - ・12月7日(水) バス研修旅行 姫路城・播磨3寺 (44名)
 - ・12月12日(月) OFG あちこち学習山歩 大和郡山散策・交流会 (15名)

活動予定

- 主なガイド、行事予定
- ・2月1日(水) 大和郡山観光ボランティア 1班
 - ・2月14日(火) 立命館小学校 全班
 - ・3月9日(木) トラベル日本 2班
 - ☆ OFG 行事
 - ・2月18日(土) 「写経と散策」 全班
 - ・3月25日(土) 「水辺の散策」 全班
 - ☆ OFG 主催歴史講演会 共催：大山崎町
 - ・2月5日(日) 「鉄砲からハイテクへ」 講師：澤田 平氏
 - ・2月26日(日) 「秀吉が築造した大坂城をさぐる」 講師：中村 博司氏
 - ☆ 1月18日(水) 新春のつどい
 - ☆ OFG あちこち学習山歩
 - ・1月30日(月) 島本町の天然記念物を観る ★★
 - ・2月27日(月) 生駒山 (雨天中止) ★★★

11～12月ガイド実績

	一般ガイド		歴史資料館		宝積寺・定点		合計	
11～12月	23件	359人	184件	299人	96件	266人	303件	924人
平成28年度累計	76件	2,337人	800件	1,696人	305件	822人	1,181件	4,855人

バス研修旅行

姫路城・播磨3寺を巡る



12月7日(水)快晴に恵まれ良い研修旅行になった。姫路城に到着し、

3班に分かれてボランティアガイドに城内を案内していただいた。明解な説明で良く解ったが広い城内を

歩き、登り降りを繰り返しくたくたに疲れた。大天守閣は修理されて、屋根も白く輝き、まさに白鷺城。しかし西小天守、乾天守等は修理されていないので、屋根の漆喰が黒ずんでいて大天守閣と白さの差があり違和感があった。

次に行った高砂市にある生石神社(石の宝殿)はパワースポットで有名な神社。石に触ってパワーをしっかり授かってきたつもり。三方岩壁に囲まれた巨岩(500~700ト)で池に浮かんでいるように見える。神代の昔のお墓を作る途中で中止されたものらしいとのことだ。昔、重機のない時代にこのような大きな石

をどのように削り、運搬したのだろうか。不思議だ。

次に小野市にある極楽浄土寺をボランティアガイドの案内で広い境内を見学。浄土寺は東大寺再建の資金調達のために造られたお寺で、浄土堂と中に安置されている鎌倉初期の名仏師快慶作の阿弥陀如来立像と両脇侍の観音菩薩立像、勢至菩薩立像と薬師堂も国宝。木造寄木作りの阿弥陀如来と観音菩薩、勢至菩薩のように巨大なのは珍しいとのこと。阿弥陀如来は高さ5m30cm(頭だけで1m)両脇侍の高さは3m70cmもある。下界を見ておられるので後ろから見ると少し猫背に見える。浄土堂と仏像は同時進行で造られ、仏像は倒れないように台座が建物と一体になっているようだ。また、浄土堂の内部は朱色に塗られている、陽の光が堂内に差し込むと堂内と金色の仏像が赤く染まり、極楽浄土にいるように感じる。冬日の弱い光でもこのように感じられるのに夏日の強い光ならばいかにばかりか。

姫路城、生石神社、浄土寺をゆっくり見学したので三十三間堂から来た鎌倉時代の仏像のある朝光寺を残念ながら見学する時間がなくあきらめて帰途に就いた。(4班 西木 豊 記)

洛中ウォーキング2016秋

洛北市原~上賀茂神社~御土居を歩く



11月14日(月)雨模様でしたが17名の参加がありました。4班の木村嘉男氏の案内で下記の名所を分かり易く説明して頂きました。

洛北市原~補陀落寺(小町寺)~更雀寺~幡枝八幡宮~妙満寺~深泥池~大田神社~上賀茂神社~御土居までのコースです。

小野小町にゆかりの有る補陀落寺には姿見の井戸・小野小町老衰像・小町供養塔・深草少将塔が印象深くここに残っています。

妙満寺は、[雪・月・花]三名園の一つで雪の庭として有名で能や歌舞伎などで演じられる道成寺由来の梵鐘(安珍・清姫伝説ゆかりの鐘)が奉納されています。

また、日本最初のマハラジャ大塔(仏舎利大塔)が建立されている。その他、本殿から遠方を眺めると遮る物がなく見事に比叡山のみが真正面に見えます。

見るもの、聞くもの感心ばかりで、皆さま熱心に勉強され、ますます知識が豊富に満足な顔で帰路に着かれました。とても楽しく有意義な一日を過ごさせて頂きました。(2班 公森 満子 記)

学習会

「生々居」の見学

生々居は加賀正太郎に実子が無く、養子に迎えた従弟の行三が結婚するにあたって、昭和11年に建てた山荘風建物であり、正太郎最後の建造物となった。

大工は、中禅寺湖畔の別荘で実績のある名工をわざわざ日光から呼び寄せている。

外壁は松丸太を使い野趣を強調している。玄関は2階で、2階には寝室がある。階段を下りるとステンドグラスが目に入り、そして20畳ほどのリビングになる。壁際には暖炉があり上には思い出のユングフラウの絵を飾っている。3本の楓の柱と階段の柱にあるフクロウの彫刻が目

OFG あちこち学習山歩

熊野古道・ツヅラト峠と天狗熊倉山



熊野を聖地視し、平安中期から天皇・貴族の参詣が盛んになる。時代が下がり武士、庶民の参詣も始まり、江戸初期まで盛行した熊野詣。

今回は11月28日(月)~29日(火)の一泊二日で熊野古道伊勢路を参加者11名で歩く。

梅ヶ谷駅から川沿いの遊歩道は原日本風景だ。石畳みを踏み杉林を上ると、ツヅラト峠に至る。前方がパット開け長島港が目飛び込んできた。劇的な風景変化だ。乗越しは九十九折れの道、綺麗な流れに沿って下る。小一時間で林道に出た。古里温泉は透明なヌルヌルの湯で体に優しい。夕食にはマンボウの料理等珍味が出て座が盛り上がった。

「風を聴く九十九峠の枯尾花」吉田星子(陸治)氏の句である。

宿のバスで登山口迄送ってもらう。今日も好天で嬉しい。この地域は前に海、背後は切り立った山で、その間の平坦地に人々が住んでいる。石畳みが多く残る古道の趣がある傾斜の緩い杉美林の山道をゆっくりと進む。時折、北側に重なった山並みが見える。

馬越峠には平坦地が広がる。空身で天狗倉山・522mへ。三角錐の端正な山で、大岩が累々と重なる頂で超個性的だ。交野山か青葉山の様である。峠越えをするとやがて谷沿いの道となり、市街地上の墓地に出た。全員無事に尾鷲駅に戻った。(2班 澤田 僚一 記)

を奪う。南面には、芝生越しに三川合流と樟葉方面が一望でき、手前の蘇鉄の大木がアクセントになっている。手の込んだ家具調度品と3枚の蘭花譜も飾られ、正太郎の美意識が窺える。

戦後、大阪で戦災にあった正太郎の弟、慶之助一家が移り住み、最近まで子息の高之さんが住まわれていたが、昨年、塚本喜左衛門氏の所有となった。

(1班 森脇 剛 記)